



まちづくり検討会議

ニュースレター 三島地区 vol4

11月19日（日）に三島地区の防災訓練「三島防災だいさくせん～8つのミッションをクリアしお宝をゲットしよう！～（以下、三島防災だいさくせん）」が、三島小学校と三島公園において実施されました。今回の防災訓練では、「若い世代が興味を持ち、参加したくなるような訓練」を目指して、企画段階から市内大学に通う大学生が参画し、学生と地域の方が一緒に訓練を企画しました。

参加者の方に楽しみながら防災について学んでいただくために、今回は、各訓練を「ミッション」と位置づけ、ミッションをクリアするごとにキーワードが1文字発表され、全てのキーワードを集めると隠された防災メッセージが明らかになるという「キーワード探しゲーム」などを取り入れました。新たなアイデア満載で実施した「三島防災だいさくせん」当日の様子を報告します

早朝のミーティングから準備スタート

9時半からの訓練スタートに向けて、当日は7時半から訓練の準備を行いました。今回の訓練は、例年よりかなり盛りだくさんな内容ということもあり、朝早い時間から、三島地区の防災委員の方52名が駆けつけてくださいました。防災委員の方と学生が集まり、準備の進め方や訓練の流れを確認する簡単なミーティングを行った後、それぞれのブースの準備作業に取り掛かりました。

準備作業では、訓練で必要となる資機材を準備したり、10月27日（金）のモノづくり会議で、学生と地域の方が協力して作成した看板や飾りつけを設置したりしました。



たくさんの防災委員さんが参加してくださいました！



各ミッションで段取りを最終確認



手作りの看板や飾り付けが訓練を彩りました



準備を終えた学生はみんなで集合写真

かまどベンチの使い方 & 非常食試食体験ミッション

今回の三島防災だいさくせんで実施する8つのミッションの内、「かまどベンチの使い方 & 非常食試食体験」、「足元が悪いところを歩く体験」、「VRゴーグルを使った防災体験 & 家具転倒防止間違い探し」の3つのミッションは、地域の方と学生が話し合って企画しました。

三島公園で実施した「かまどベンチの使い方 & 非常食試食体験」ミッションは、地域の方と学生が話し合う企画会議の中で出た「三島公園には、せっかくかまどベンチがあるのに使い方がわからない」、「非常食をみんなで食べたなら盛り上がりそう」というアイデアから生まれた企画です。訓練当日は、市危機管理課の職員と防災委員の方が、ベンチを解体して、かまどを組み立てるまでの流れを参加者の方に説明し、参加者の方に組み立て作業の一部を実際に体験していただきました。また、かまどベンチの隣に設けた非常食の試食体験コーナーでは、常に一定の食料を家に備蓄するための「ローリングストック」という備蓄方法を、学生が参加者の方に説明し、説明の後には非常食を試食いただきました。今回、初めて非常食を食べたという方も多く、「想像していたよりもおいしい!」、「こんなにいろんな種類があるんだ」といった声が多く聞かれました。



ベンチがかまどに変わっていく様子に皆さん興味津々



組み立てが完了したかまど



当日はいろんな種類の非常食を準備しました



「ローリングストック」の説明をする学生

足元が悪いところを歩く体験ミッション

次に紹介するのは、小学校の渡り廊下で実施した「足元が悪いところを歩く体験」ミッションです。このミッションは、様々な障害物を設置して足元が悪い場所を作り出し、その中を実際に歩いてもらうことで避難を疑似体験してもらうというもので、当日、小学校の渡り廊下には、障害物に見立てた数々の段ボールや長椅子、ロープなどを設置し、足元が悪いコースを作りました。

三島地区は、安威川のすぐ東側に位置し、水害の恐れがある地域であることから、足元が悪いコースを歩いてもらう前には、担当の学生から「水害時の避難行動の3つのポイント」を説明しました。参加者の皆さんは真剣な表情で学生の説明を聞き入り、説明の内容について、参加者の方が学生に質問をするような場面もありました。このミッションは、実際に体を動かして避難の体験をしてもらうことで、「こども達が楽しみなが

ら学んでくれそう」、「大人も体を動かすことで訓練が印象に残ると思う」という狙いで、学生中心に考えたミッションです。学生の狙い通り、こども達は楽しみながら、笑顔で体験をしてくれ、大人の方もこれまでになかった珍しい訓練に興味深そうにチャレンジしておられました。渡り廊下には、足元が悪いコースとは別に、車いすを押す体験コーナーも設けていましたが、こちらのコーナーも、学生の操作説明を聞きながら、皆さん熱心に体験されておられました。



「水害時の避難行動のポイント」を説明する学生



車いすの使い方もこれでバッチリ！



こどもだけでなく大人もチャレンジ

ブルーシートの下には「たまごパック」が敷き詰められており、がれきを踏んだ時の音を表現しました！皆さん予想外の音と感触に、驚かされている様子でした。

VR ゴーグルを使った防災体験&家具転倒防止間違い探しミッション

最後に紹介するのは、小学校の会議室で実施した「VR ゴーグルを使った防災体験&家具転倒防止間違い探し」のミッションです。

VR (Virtual Reality) は「仮想現実」という意味で、VR ゴーグルを装着して、災害の動画を視聴することによって、あたかも実際に災害が発生しているような、臨場感あるリアルな体験をすることができます。VR ゴーグルを使って、参加者の方にリアルな防災体験をしていただくことにより、防災への危機意識を高めてもらいたいという思いで、今回の訓練で実施することとなりました。

当日は、3つのVR ゴーグルを会議室に用意し、震度6強、マグニチュード7.3を想定した地震のアニメーション映像を参加者の方に視聴いただきました。VRの映像を初めて視聴されるという方が非常に多く、VR映像のリアルな迫力に、多くの方が驚かれています。中には、動画を視聴して平成30年の大阪北部地震を思い出したという方もおられました。

また、VR体験コーナーの奥では、正しい家具の転倒防止対策ができているボウシ君のお部屋と対策ができていないテント君のお部屋の絵を貼りだし、間違い探しゲームの感覚で家具の転倒防止対策を学んでいただきました。コーナーを担当する2名の学生が参加者の方に「間違いがわかる人は手を挙げてください！」と呼びかけると、参加していたこども達の手が一齐に上がり、元気に間違っている箇所を発表してくれていました。単に説明をするのではなく、ゲーム形式で参加者を巻き込みながら学ぶことによって、こどもも大人も最

後までしっかり転倒防止の対策を聞いてくださっていました。



VRコーナーでリアルな防災体験



VRは特に子ども達に大人気でした！



ボウシ君とテント君の部屋を入念に観察



学生が転倒防止対策を詳しく説明しました

幕を閉じた三島地区と学生のコラボ

9時半からスタートした訓練は、大きな混乱もなく、予定通り11時半ごろに終了しました。参加者の皆さんは、8つのミッションでキーワードをゲットし、「向こう三軒両隣が命を救う」という隠された防災メッセージにたどり着き、参加賞として、アルファ化米などの非常食、非常時の持出し品一覧、防災マスター認定書を受け取って帰られました。

今回の防災訓練には、三島地区や近隣の庄栄地区の住民の方160名が参加されました。例年に比べて、子どもの参加が非常に多く、子どもの付き添いで若い親御さんも多く来てくださり、「若い世代の方にたくさん参加いただく」という当初の目標を達成することができました。

今回、学生と地域のコラボによって、これまでになかったゲーム感覚で楽しめる訓練を企画し、若い世代の方を多く呼び込むことができました。三島地区の「まちづくり検討会議」の取組はこれで終了となりますが、今回活動に参加してくれた学生が、また三島地区で活躍してくれることを期待したいと思います！



防災マスター認定書は、来年の訓練に持ってくと景品と交換することができます！

活動にご協力いただいた地域の方にも、感想をお聞きしました！

「全世代が参加できる防災訓練」を目標に8月9日、学生の皆さんと共創した「まちづくり検討会議」はスタートしました。避難所運営訓練の具体性はありませんでしたでしたが、学生のアイデアや地域コミュニティ課の段取りが進む中で、ゲーム感覚を取り入れた防災訓練の具体化が図られました。苦・楽が共にありましたが、訓練当日は30・40歳代の家族連れが参加者の半数以上を占め、目標を達成することができました。「楽しかった」との声が多数あり、これからの防災訓練の開催方法を考えさせられる行事となりました。今後も、学生をはじめ若い世代の皆さんとの連携を模索しながら、防災力の向上に努めてまいります。

三島地区自主防災会・三島地域まちづくり協議会 大島会長

参加者の声

三島防災だいさくせんを終え、活動に参加した学生に、今回の活動を終えての感想をお聞きしました。

訓練の企画案を出す段階から、訓練当日まで一貫して携われたことで、自分が提案した案が実現し、多くの方々に体験してもらえる様子を間近で見られたことがとても良い経験になりました。また、地域の方との会議では、大学生の視点にはない考え方や経験に基づいた意見を聞くことができ、私自身の視野も広がったように思います。改めて、約3ヶ月間ありがとうございました！



立命館大学 赤井さん

幅広い世代の方と交流したことで、1つのアイデアを多角的な視点から捉えることができ、本番に備えてより良い準備ができたと思いました！本番では、話し合いを重ねて考案したものが形になったこと、こどもをはじめとする参加者の笑顔を見ることができ、非常にやりがいを感じました。機会があればまた参加したいです！



立命館大学 池田さん

この取組を通してでないと、自分から防災訓練に携わったり、内容を考えたりする機会に出会えなかったと思うので、地域の方と一緒に防災について考えていくことができよかったです。訓練当日は参加できませんでしたが、モノづくり会議では、製作物を学生主体で自由に作らせてもらったので楽しかったです。



立命館大学 上森さん

防災訓練に企画段階から携われることができ、とても楽しかったです。同じ目標を掲げて、地域の方々と一緒に活動することで、まちづくり活動とはどういうものかを身近で感じることができ、とても良い経験となりました。



追手門学院大学 大西さん

どんな意見も「そんなの思いつかなかった！」「斬新で良いね！」という風に受け入れていただき、会議に参加するのがとても楽しみでした。担当させていただいたVRコーナーでは多くの方に「VRは初めて」「地震を具体的にイメージできた」などの感想をいただき、私たち学生が参加した意味があったと実感できとても良かったです。



立命館大学 新宅さん

まちづくり検討会議の三島地区の活動に参加させていただいて、防災訓練のタイトルからミッションの内容など、地域の方と一緒に考えて、形になっていく過程が他ではなかなか体験できないとても貴重な機会でした。当日もたくさんの方に参加してもらって、嬉しかったです。



追手門学院大学 北村さん

準備の段階から当日の運営まで参加させていただくという貴重な機会をいただき、地域コミュニティや地域防災について学習することができました。

当日来場くださった地域住民の皆さまとも交流を深めることができ嬉しかったです。またこのような機会があればぜひ参加させていただきたいです。



追手門学院大学 中村さん

目標であった若者世代の参加率向上に貢献できたこと、地域の方々が温かく迎え入れてくださったことに達成感と喜びの気持ちでいっぱいです。話し合いの中で、皆さんが意見を肯定し合いながら、たくさんの素敵なアイデアが生まれたことが印象的で、素敵な方々と共に防災訓練をつくりあげることができたことを誇りに思います。



立命館大学 瀧さん

とても楽しく活動させていただきました。地域の方や市役所の職員さん方、学生の方など、たくさんの方と交流しながら活動しました。とても親切で話しやすい雰囲気だったので、楽しく活動でき、貴重な経験をさせて頂きました。活動に参加することができて良かったです。ありがとうございました。



立命館大学 藤井さん